

YAMAHA

DIGITAL PIANO

YDP-300

取扱説明書

このたびは、ヤマハ・デジタルピアノ YDP-300をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

YDP-300の機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、この「取扱説明書」をご活用ください。

お読みになったあとは、いつでもご覧になれるところに大切に保管してくださいませよう、お願い申し上げます。

本書の構成

はじめに

「はじめに」では、YDP-300の特長や、お使いになる上でのご注意、読みたいページの見つけかた、各部の名称とはたらきなどについて説明します。

YDP-300を最初にお使いになる前に、必ずお読みください。

基本編

「基本編」では、基本的な音色選択をはじめ、ペダル効果や、演奏を盛り上げるさまざまな効果について説明します。

応用編

「応用編」では、自分の演奏を録音できるレコーダーなどの発展的な機能や、他の機器との接続方法、そしてMIDI機能について説明します。

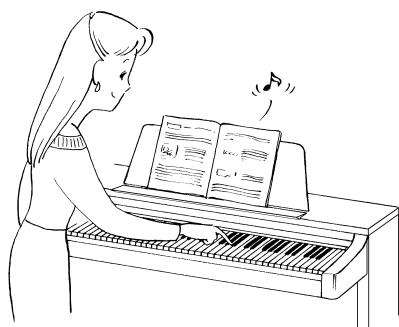
資料編

「資料」では、YDP-300の組み立てかたなど、お使いになる上で役に立つ資料をまとめてあります。

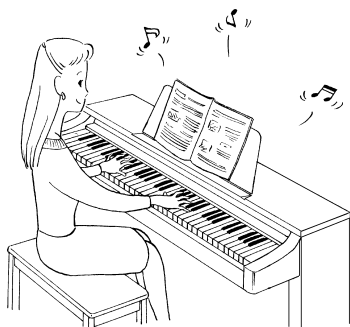
目次



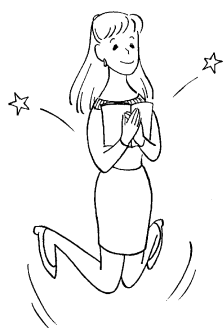
正しくお使いいただくために	2
付属品	2
特長	3
目的のページの見つけかた	3
表記上のきまり	3
ご使用前の準備	4
音を出す準備	5
各部の名称とはたらき	6



さあ！弾いてみましょう	8
デモ演奏を聴いてみましょう	9
ペダル効果	10
デュアル機能	10
メトロノーム機能	12



録音	14
再生	15
トランスポーズ（移調）機能	17
ピッチコントロール機能	18
他の機器と接続する	19
MIDIとは	20
MIDI機能の設定	21
MIDIデータフォーマット	23
MIDIインプリメンテーションチャート	25



YDP-300の組み立てかた	26
仕様	28
オプション（別売品）のご紹介	29
保証とアフターサービス	裏表紙

はじめに

基本編

応用編

資料編

正しくお使いいただくために



設置場所

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に熱い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所



お取り扱い

次のようなご使用は、故障や外装を傷める原因となりますので、ご注意ください。

- ・物をぶつけたり上に乗るなど、乱暴に扱う。
- ・汚れた手や濡れた手で触る。
- ・ボタンやスイッチ類に無理な力を加える。



YDP-300の上に物を置く場合のご注意

次のような物をYDP-300の上に置きますと、水がこぼれて故障の原因になったり、外装を傷める原因となりますので、ご注意ください。

- ・水の入った花瓶や鉢
- ・塩化ビニール加工された表紙の本、ビニール製品、プラスチック製品



外装と鍵盤のお手入れ

- ・お手入れは、フェルト布などの柔らかい乾いた布で乾拭きするか、汚れのひどいときは少し水で湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナーなどの溶剤は、絶対に使用しないでください。
- ・市販の化学雑巾や外装手入れ剤のご使用は避けてください。



電源

- ・YDP-300は日本国内仕様です。電源は必ずAC100Vでご使用ください。
- ・ご使用にならないときは、電源スイッチを切ってください。
- ・落雷の危険があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をするとう質が劣化したり、故障の原因となりますので、ご注意ください。
- ・濡れた手で電源プラグに触れると、感電するおそれがありますので、ご注意ください。
- ・電源コードをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いてください。コードを引っ張ると、断線やショートの原因となります。



接続

- ・YDP-300を外部機器と接続するときや、接続コードをはずすときは、スピーカーやアンプの損傷を防ぐため、あらかじめ両機器の電源を切ってください。
- ・電源を入れるときや切るときは、あらかじめ両機器のボリュームを最小にしてください。



他の電気機器への影響

ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生することがあります。十分に離してご使用ください。



保証書

お買い求めいただきました際に、お買い上げ店で必ず保証書の手続きをお取りください。保証書にご購入日や販売店印がない場合、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、ご注意ください。

その他

- ・YDP-300の内部を開けたり改造することは、事故や故障の原因となりますので、絶対にしないでください。改造後の保証はいたしかねます。
- ・誤って水やその他の液体をYDP-300にこぼしたり、YDP-300から異臭や煙が出たときは、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げ店または巻末のサービス拠点にお問い合わせください。

YDP-300は調律の必要がありません。



音楽を楽しむエチケット

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時間や場所によっては気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。隣近所への配慮を十分にしてい、快い生活環境を守りましょう。

付属品（お確かめください）

ヘッドフォン HPE-3
椅子 BC-8

取扱説明書（本書）
保証書
ご愛用者カード

特長

AWM音源により、リアルで高品位な表現が可能です。

最大28音の同時発音により、幅広い演奏表現が可能です。

ピアノのアクション機構解析から生まれた自然なタッチ感覚のAE鍵盤を採用しました。

デュアル機能により、2つの音色を重ねて演奏することができます。

メトロノームを装備しており、レッスンなどで有効にお使いいただけます。

自分の演奏を録音したり、再生させることができます。

デジタル楽器の統一規格であるMIDI端子を装備しており、演奏表現の可能性がますます広がります。

目的のページの見つけかた

必要な情報を手早く見つける方法はいくつかあります。




巻頭の「目次」を使う。
最も一般的な方法です。

「はじめに」の中の「各部の名称とはたらき」（6、7ページ）を参考にする。
ボタンなどの働きがわからなくなったときに、有効な方法です。
パネルのイラストから、関連ページがすぐに探し出せます。

表記上のきまり

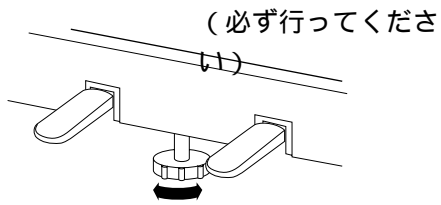
この取扱説明書では、表記に次のような記号を使います。

 補足 : 補足説明です。

   : 本書の手順の説明のイラストで、ランプの点灯、点滅、消灯は、それぞれこのように表します。

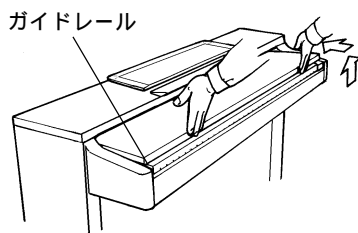
ご使用前の準備

アジャスターの調節



設置場所が決まりましたら、ペダル下のアジャスターを回して、ペダル部を床面に固定させてください。
アジャスターが固定されていないと、ペダルを踏んだときにぐらつきが生じます。

キーカバーの扱いかた



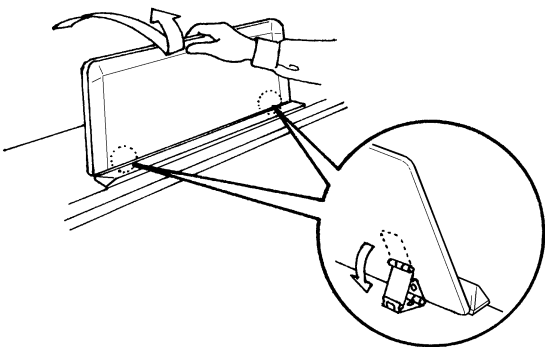
開けるとき

- 少しだけ持ち上げます。
- ・持ち上げすぎないように、ご注意ください。
ガイドレールの上をすべらせて開けます。

閉めるとき

- ガイドレールに沿って下へすべらせてます。
手を添えて降ろします。

譜面立ての扱いかた



立てるとき

- 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
譜面立て後ろ側の金具2つを、下向きに開きます。
金具2つが固定される位置まで、譜面立てを戻します。

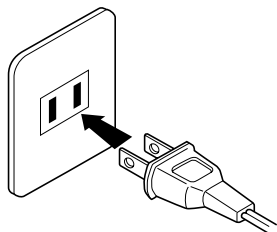
倒すとき

- 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
譜面立て後ろ側の金具2つを、上向きに閉じます。
譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

- ・ 譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。
- ・ 譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

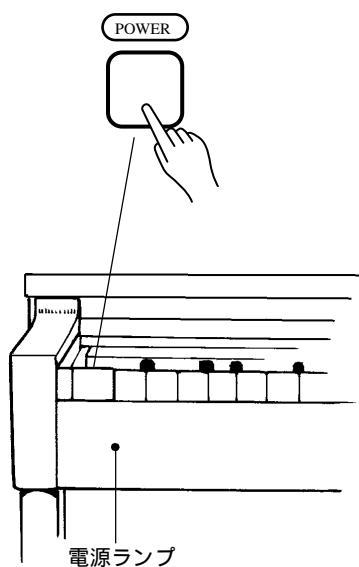
音を出す準備

1 電源コードを接続する



家庭用（AC100V）コンセントに、電源プラグを差し込みます。

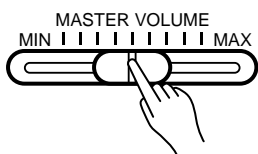
2 電源を入れる



電源（POWER）スイッチを押して電源を入れます。

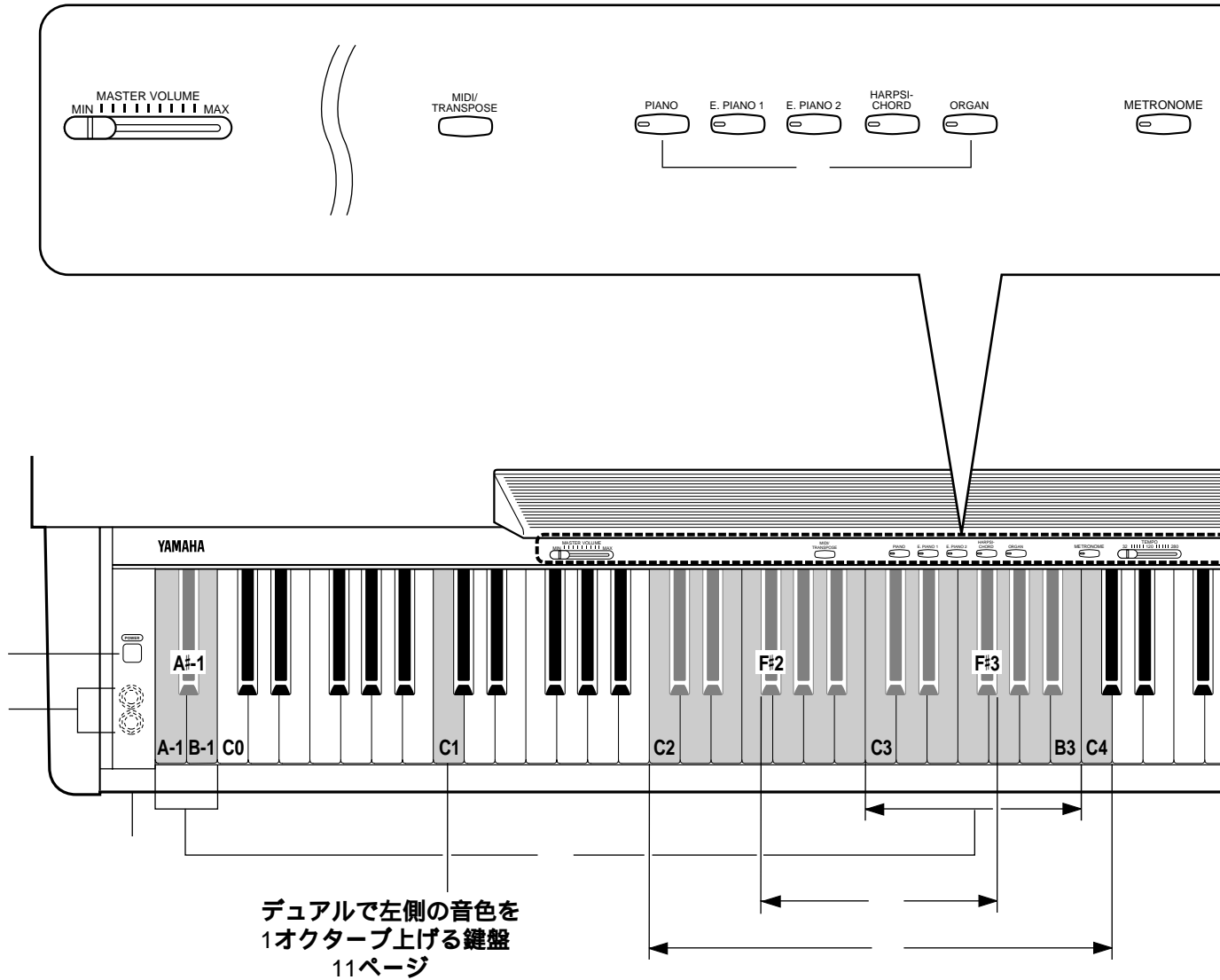
「電源ランプが点灯します。」

3 音量を調節する



ボリューム（MASTER VOLUME）を中程まで上げておきます。あとは、YDP-300を実際にお使いいただきながら、調節します。

各部の名称とはたらき



矢印 () のページに詳しく説明してあります。

電源スイッチ [POWER] 5ページ

電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

ボリューム [MASTER VOLUME] 5ページ

音量を調節するためのスライダーです。

MIDI/トランスポーズボタン [MIDI/TRANPOSE]

17、21、22ページ

MIDI (ミディ) 機能の設定をするときや、トランスポーズ (移調) の設定をするときに使用します。

音色ボタン 8ページ

演奏に使う音色を選ぶことができます。

同時に2つのボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することもできます。(デュアル機能 10ページ)

メトロノームボタン [METRONOME]

12ページ

このボタンを押してランプを点灯させると、メトロノーム音が加わります。

テンポスライダー [TEMPO] 13、16ページ

テンポを調節するためのスライダーです。

プレイボタン [PLAY] 16ページ

再生するときに押すボタンです。

レコードボタン [REC] 14ページ

録音するときに押すボタンです。

デモボタン [DEMO] 9ページ

デモ演奏を聴くときに押すボタンです。

ヘッドフォン端子 [PHONES] (裏面にあります)

ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを接続すると、YDP-300のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。

2つのヘッドフォンを接続することができますので、お子様のレッスンをもう一人の方が確認したり、アンサンブルも可能です。耳をあまり刺激しないように、適度な音量でご使用ください。

電源ランプ 5ページ

電源を入れると点灯し、切ると消灯します。

ピッチコントロール用鍵盤 18ページ

ピッチ (音程) の設定で使用する鍵盤です。

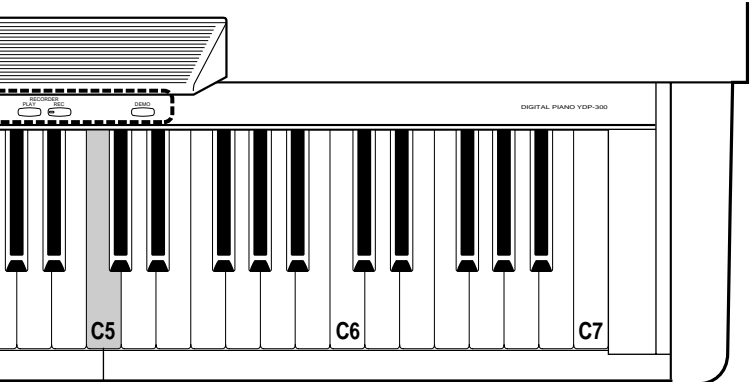
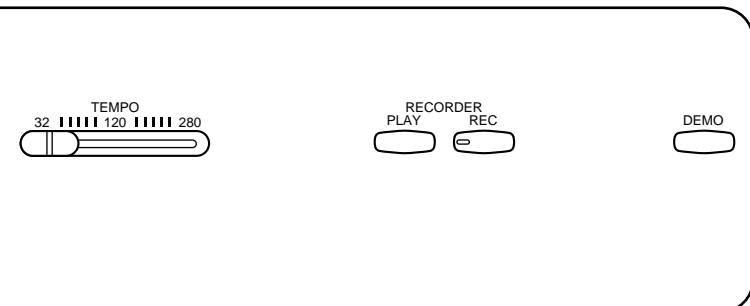
トランスポーズ用鍵盤 17ページ

トランスポーズ (移調) の設定で使用する鍵盤です。

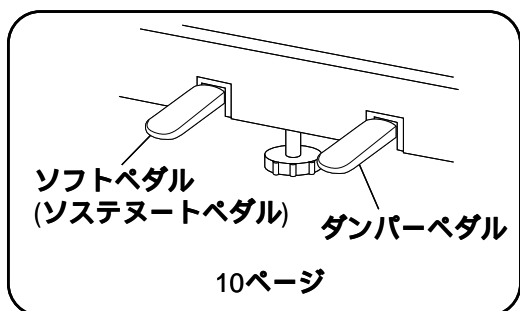
バランス用鍵盤 11ページ

デュアル機能での音量バランスを設定するときに使用する鍵盤です。

リアパネルの説明は19、20ページをご覧ください。



デュアルで右側の音色を
1オクターブ上げる鍵盤
11ページ

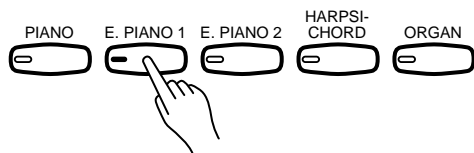


ソフトペダル
(ソステヌートペダル) ダンパーペダル

10ページ

さあ！弾いてみましょう

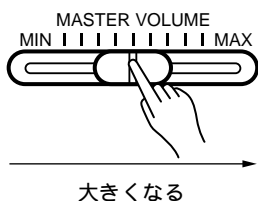
1 音色の指定



演奏したい音色のボタンを押します。
ランプが点灯します。

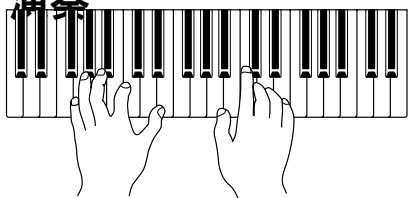
・下記の音色一覧表を参考にしてください。

2 音量調節



ボリューム (MASTER VOLUME) で音量を調節します。


3 演奏



いろいろな音色に切り換えて、弾いてみましょう。

音色一覧表

音色	音のイメージ
ピアノ (PIANO)	ダイナミックで豊かな響きのグランドピアノの音色です。
エレクトリックピアノ1 (E.PIANO 1)	ストリングス風の温かい音色とハーブ風の固めの音をミックスした音です。ドビュッシーなど、夢のある曲にお勧めです。
エレクトリックピアノ2 (E.PIANO 2)	固めのクリアなエレクトリックピアノの音色です。
ハーブシコード (HARPSICHORD)	バロック音楽などでよく使われる、ピアノの原形ともいわれる鍵盤楽器ハーブシコードの音色です。チェンバロともいいます。
オルガン (ORGAN)	パイプオルガンの音色です。

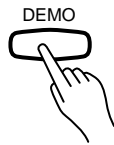
 **補足** ・ピアノの音色は、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。そのため、音域によっては倍音が強調されて聴こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合があります。

・YDP-300にはさまざまな効果や機能がありますが、それらは後で順に紹介していきます。

デモ演奏を聴いてみましょう

YDP-300には、デモ演奏が各音色について1曲ずつ内蔵されており、いつでも自由に聴くことができます。

1 デモ演奏の選曲状態に入る



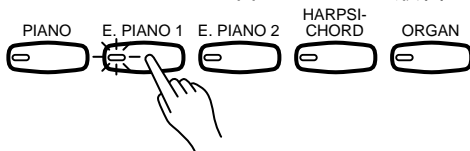
デモ (DEMO) ボタンを押します。

「音色ボタンのランプが順に点滅し、デモ演奏の選曲待ち状態になります。

2 曲をスタートさせる

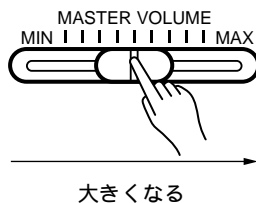
デモ演奏を聴きたい音色ボタンを押します。

「押したボタンのランプが点滅し、その音色に応じたデモ演奏がスタートします。その後、ストップさせるまで音色ボタンの順番に連続演奏されます。



- ・デモ演奏中、別の音色ボタンを押すと、そのデモ曲に切り換わります。
- ・デモ演奏中の音色ボタンをもう一度押すと、デモ演奏はストップして再び選曲待ちの状態に戻ります。

3 音量調節




ボリューム (MASTER VOLUME) で音量を調節します。

4 デモ演奏状態から抜ける


デモボタンを押します。

「デモ演奏状態から抜け、通常の状態に戻ります。

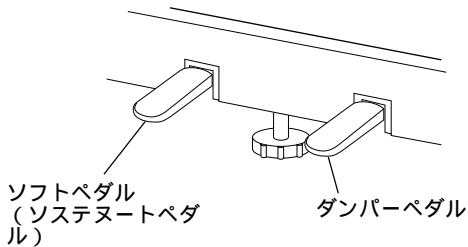
 補足 ・ デモ演奏のテンポは変更できません。

デモ曲一覧表

音色	曲名	作曲者
ピアノ (PIANO)	ピアノソナタK.V.331第3楽章「トルコ行進曲」	モーツァルト
エレクトリックピアノ1 (E.PIANO 1)	「なき王女のためのパヴァーヌ」	ラベル
エレクトリックピアノ2 (E.PIANO 2)	オリジナル	
ハーブシコード (HARPSICHORD)	「調子のよい鍛冶屋」	ヘンデル
オルガン (ORGAN)	「結婚行進曲」	メンデルスゾーン

 補足 ・ デモ演奏は、1曲すべてでなく部分的に抜粋しているものもあります。

ペダル効果

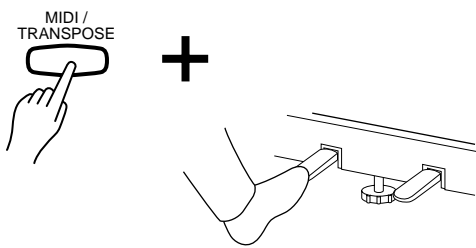


YDP-300のスタンド部分には2つのペダルがついています。左側のソフトペダルは切り換えて、ソステヌートペダルにすることもできます。各ペダルの効果をうまく使い分けましょう。

1 ダンパーペダル

アコースティックピアノを演奏する際に最もよく使うペダルです。ペダルを踏むと、すべての音に余韻がかかります。

2 ソフト/ソステヌートの選択




MIDI/トランスポーズ (MIDI/TRANSCOPE) ボタンを押しながら、ソフトペダルを踏むと、ソステヌートペダルになります。もう一度同じ操作をすると、ソフトペダルに戻ります。

3 ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。音の響きを柔らかくしたいところで使うと効果的です。

4 ソステヌートペダル

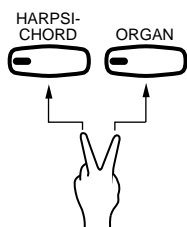
ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけに余韻が付きます (ソステヌート効果)。ペダルを踏んだ後に弾いた音には、余韻は付きません。低音部の音だけを響かせながら、右手でメロディを弾くときなどに使用します。ソステヌート効果は、ドビュッシーの「月の光」などに使われています。

 **補足** ・ソフト/ソステヌートの選択は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時にはソフトペダルに戻ります。

デュアル機能

2つの音色を選んで、重ねて演奏することができます。

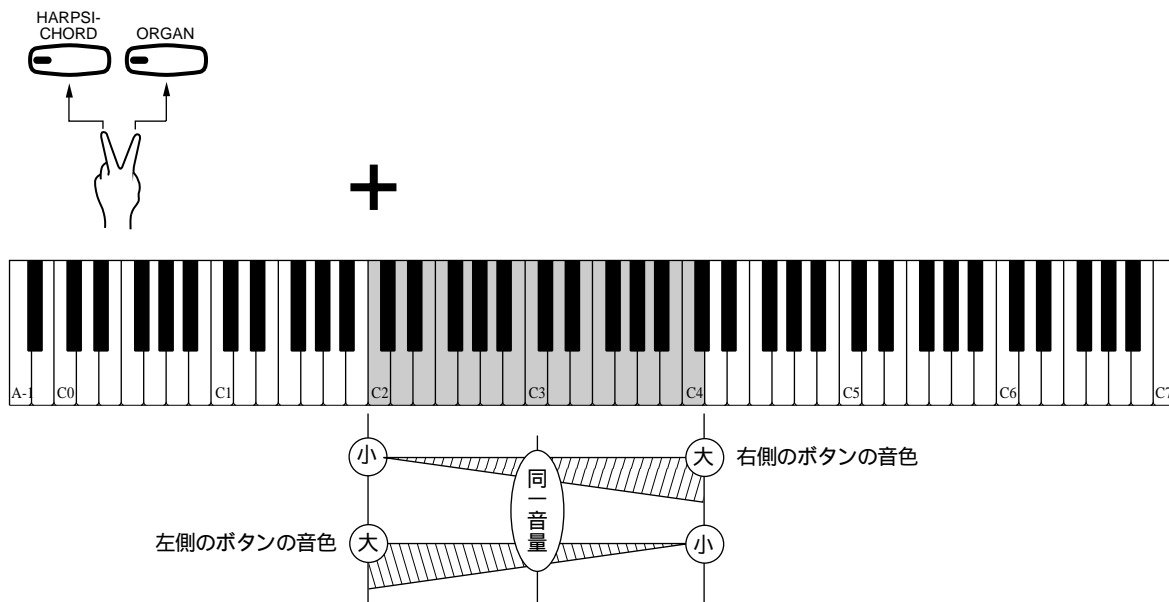
1 デュアル状態に入る



組み合わせたい2つの音色ボタンを同時に押します。「ランプが点灯します。」

2 音量バランスの設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C2～C4の鍵盤を押すことで、2つの音色の音量バランスを設定できます。



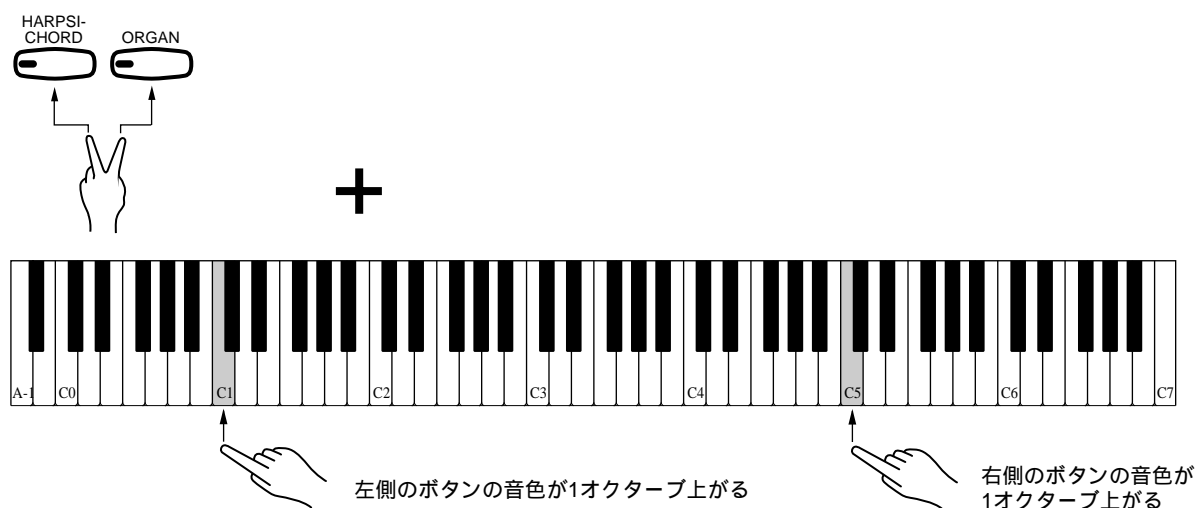
3 片方を1オクターブ上げる設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、

Cの鍵盤を押すと 右側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。


Cの鍵盤を押すと 左側に配置されているボタンの音色が、1オクターブ上がります。

- ・ いずれの場合も、もう一度同じ操作をすると、元の音程に戻ります。
- ・ 設定した音量バランスとオクターブの切り換えは、電源をオフにするまで記憶されます。



- 補足** ・ 設定は電源をオフにするまで記憶されます。
 ・ オクターブの切り換えは、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、すべて同一オクターブになっています。

デュアル機能

-  **補足** ・音量バランスの設定は、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、下表の鍵盤を押して設定したバランスになっています。

	オルガン	ハーブシコード	エレクトリックピアノ2	エレクトリックピアノ1
ピアノ	E2	C3	C3	C3
エレクトリックピアノ1	F2	C3	C3	
エレクトリックピアノ2	E2	C3		
ハーブシコード	G2			

C2 : 左側音色最大音量 / 右側音色最小音量
 ……
 C3 : 同一音量
 ……
 C4 : 左側音色最小音量 / 右側音色最大音量

メトロノーム機能

正確なテンポで演奏したいときは、YDP-300のメトロノームをお使いください。

1 メトロノームをスタートさせる

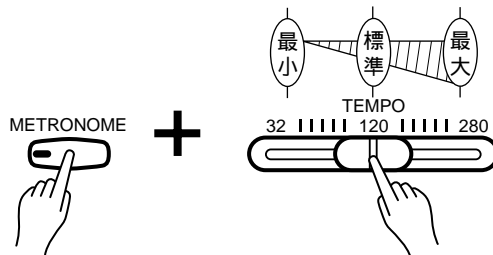


メトロノーム (METRONOME) ボタンを押します。
 「メトロノームボタンのランプが点灯し、メトロノームがスタートします。

- ・録音した曲の再生中に押すと、再生のタイミングに合わせて、メトロノームが鳴ります。

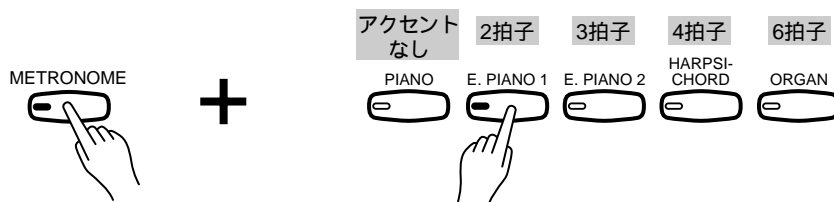
2 メトロノームの音量調節

メトロノームボタンを押しながら、テンポ (TEMPO) スライダーを動かすことで、メトロノームの音量を調節できます。



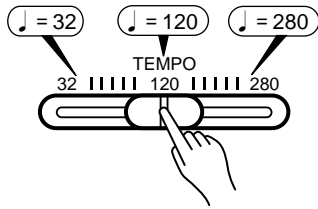
3 拍子の設定

メトロノームボタンを押しながら、音色ボタンを押すことで、メトロノームの拍子を設定できます。音色ボタンには、次のように拍子が割り当てられています。



4

テンポの調節



テンポスライダーを動かすことで、メトロノームの速さ（1分間の拍数）を♩ = 32 ~ 280の範囲で調節できます。

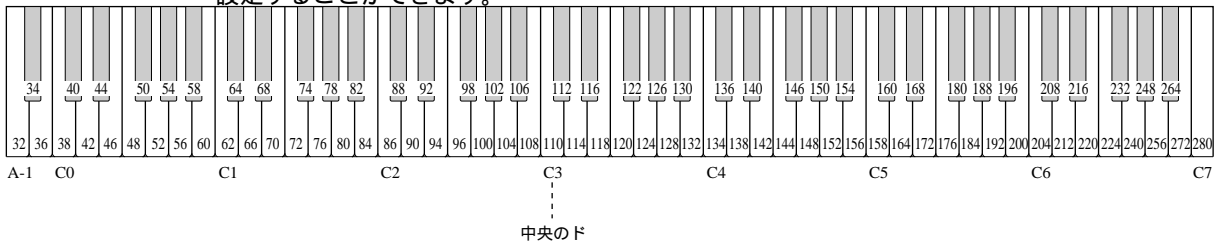
5

メトロノームを止める



メトロノームボタンを押します。
「メトロノームボタンのランプが消灯して、メトロノームが止まります。」

- 補足** ・ 録音した曲を再生させながらメトロノームを鳴らしているとき、レコーダーのプレイ（PLAY）ボタンを押して再生をストップさせると、メトロノームも止まります。
- ・ 電源オン時には、メトロノームの音量は標準、拍子は「アクセントなし」になっています。
- ・ メトロノームボタンを押しながら鍵盤を押すことで、テンポ（♩ = ）を下記のように正確に設定することができます。



鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ	鍵盤	速さ
A -1	32	A 0	56	A 1	80	A 2	104	A 3	128	A 4	152	A 5	192	A 6	256
A#-1	34	A#0	58	A#1	82	A#2	106	A#3	130	A#4	154	A#5	196	A#6	264
B -1	36	B 0	60	B 1	84	B 2	108	B 3	132	B 4	156	B 5	200	B 6	272
C 0	38	C 1	62	C 2	86	C 3	110	C 4	134	C 5	158	C 6	204	C 7	280
C#0	40	C#1	64	C#2	88	C#3	112	C#4	136	C#5	160	C#6	208		
D 0	42	D 1	66	D 2	90	D 3	114	D 4	138	D 5	164	D 6	212		
D#0	44	D#1	68	D#2	92	D#3	116	D#4	140	D#5	168	D#6	216		
E 0	46	E 1	70	E 2	94	E 3	118	E 4	142	E 5	172	E 6	220		
F 0	48	F 1	72	F 2	96	F 3	120	F 4	144	F 5	176	F 6	224		
F#0	50	F#1	74	F#2	98	F#3	122	F#4	146	F#5	180	F#6	232		
G 0	52	G 1	76	G 2	100	G 3	124	G 4	148	G 5	184	G 6	240		
G#0	54	G#1	78	G#2	102	G#3	126	G#4	150	G#5	188	G#6	248		

録音

YDP-300にはレコーダーがあり、自分の演奏を1曲録音することができます。

1

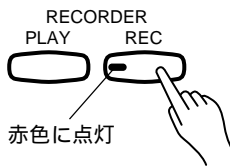
音色を選ぶ

録音したい音色のボタンを押します。

- ・録音中に音色を切り換えると、その操作も記録され、再生時に同じタイミングで音色が切り換わります。

2

録音待機状態にする



レコード (REC) ボタンを押します。

「レコードボタンのランプが赤色に点灯し、録音待機状態になります。

- ・録音を中止するときは、もう一度レコードボタンを押します。

3

メトロノームを鳴らす場合

メトロノームボタンを押します。

- ・メトロノームのテンポや音量を調節したり、拍子を設定することができます (12ページ参照)。
- ・メトロノームの音は録音されません。

4

録音を始める

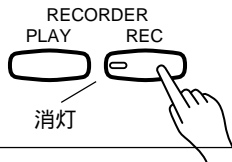
演奏を始めます。

「鍵盤を押した時点から録音が始まります。

- ・曲のはじめに何拍かの無演奏部分が必要なときは、プレイ (PLAY) ボタンを押します。録音が始まりますので、必要な拍数だけ待ってから演奏を始めます。


5

録音を終わる



レコードボタンまたはプレイボタンを押します。

「レコードボタンのランプは消灯し、再生待機状態になります。

-  **補足** ・録音は音符やペダル操作だけでなく、デュアル音色の組み合わせなど次ページの表の内容が記録されます。演奏を始めるまで (手順3以前) に操作した音色選択などの情報は、その曲の初期値として記録されます。初期値は、あとで変更できます (次ページ参照)。
- ・最大約1,300音符記録できますが、機能をたくさん使うと減ります。
また、録音の途中でも記憶残容量がなくなると、レコードボタンのランプが点滅し、録音が終了します (終了した時点までの演奏は記録されます)。
 - ・録音した曲は、電源をオフにするまで記憶されます。電源をオフにすると消えてしまいますが、YDP-300にディスクオーケストラユニット DOU-10などを接続して演奏データを送信すると、曲を保存することができます (22ページ参照)。

記録内容について

データ	初期値	録音中	録音後の初期値変更	操作
押鍵情報	×		×	押鍵
音色				音色ボタン
デュアル音色				音色ボタン + 音色ボタン
デュアルバランス				音色ボタン + 音色ボタン + 鍵盤C2 ~ C4
ダンパーペダル				ダンパーペダル
ソフトペダル				ソフトペダル
ソステヌートペダル	×		×	ソステヌートペダル (ソフトペダルから切り換え時)
テンポ		×		テンポスライダー

初期値の変更

録音が終わったあとで、録音した曲の初期値を変更することができます。変更できる内容は、上表をご覧ください。

レコードボタンを押します。

「レコードボタンのランプが赤色に点灯して、録音待機状態になります。

パネルを操作して初期値を変更します。

レコードボタンを押します。

- ・ 誤ってプレイボタンや鍵盤を押さないでください。プレイボタンや鍵盤を押すと録音が始まってしまう、録音済みの曲が消えてしまいます。

「レコードボタンのランプが消灯します。

- ・ たとえば、録音したピアノの音色をエレクトリックピアノ1に変更したいときは、レコードボタンを押して録音待機状態にし、次にエレクトリックピアノ1の音色ボタンを押し、再びレコードボタンを押します。これで音色がエレクトリックピアノ1に変更されます。

録音した曲の削除

レコードボタンを押して録音待機状態にします。

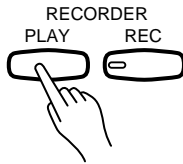
プレイボタンを2回押します (プレイボタンを押して録音を開始し、何もしないでもう一度プレイボタンを押して録音を終了させます)。

再生

録音した曲を再生させてみましょう。

1

再生を始める



プレイ (PLAY) ボタンを押します。

「再生が始まります。

- ・再生音に合わせて、演奏することができます。

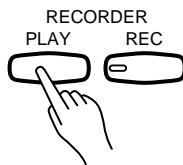
2

音量を調節する

ボリュームで音量を調節します。

3

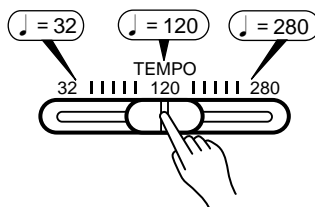
再生を終わる



もう一度プレイボタンを押します。

- ・曲の最後まで再生させたときは、プレイボタンを押さなくても再生が終わります。

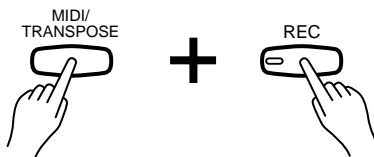
テンポを変える



再生中にテンポスライダーを動かすことで、テンポを変更することができます。

- ・メトロノームボタンを押しながら鍵盤を押すことで、テンポを正確に変更することもできます (13ページ参照)。

曲の早送り



再生中にMIDI/トランスポーズボタンを押しながらレコードボタンを押すことで、早送りができます。

「早送り音が聴こえます。

- ・操作をやめたところから、通常の再生音に戻ります。

 **補足** ・再生音はMIDI OUT端子からは出力されません。

トランスポーズ（移調）機能

押さえる鍵盤を変えずに、歌う人の声や他の楽器の高さに、キー（調）を合わせることができます。（つまり、弾く鍵盤の位置と発音される音の高さをずらすことができます。）

- ・ -6 ~ +6半音の範囲でずらすことができます。「ド」の音なら低い方に最大で「ファ#」（半オクターブ下）まで、高い方も最大で「ファ#」（半オクターブ上）までずらすことができます。たとえば、+5半音ずらす（完全4度上げる）と、下の楽譜Aを弾くと、楽譜Bのように鳴ります。



移調量の設定

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、F#2 ~ F#3の鍵盤を押すことで、移調量を設定できます。

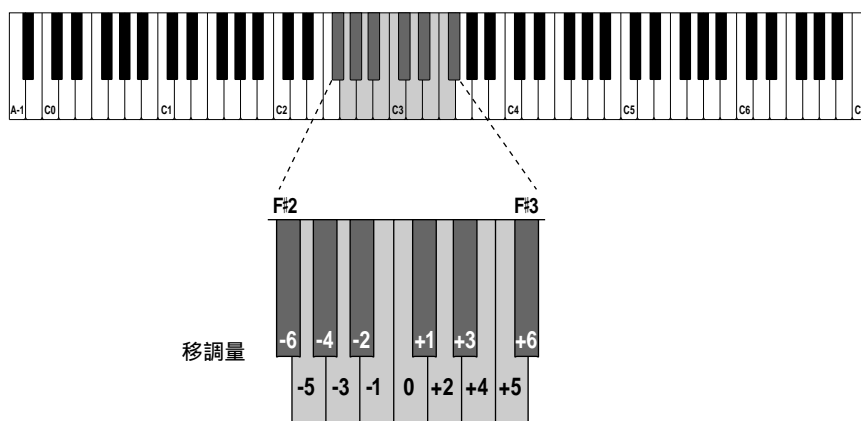
F#2の鍵盤 -6半音に設定されます。

Cの鍵盤 ... 標準状態（0）です。

F#3の鍵盤 +6半音に設定されます。



+



補足 ・ 設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には標準状態（0）に戻ります。

- ・ 移調によって、A-1より低くなった音は1オクターブ上の音で、C7より高くなった音は1オクターブ下の音で鳴ります。

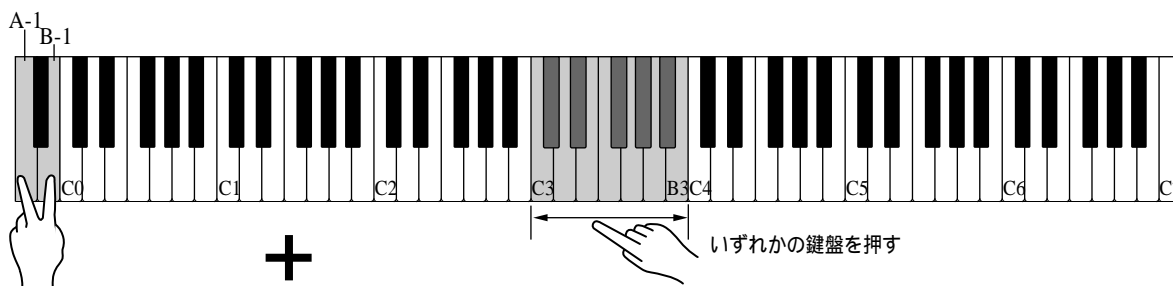
ピッチコントロール機能

合奏のときなどに、音程（ピッチ）を正確に合わせるための機能です。他の楽器と微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って音の高さを合わせます。

- ・ 約-50セント～約+50セントの範囲で、約1.6セントきざみの設定ができます（100セント＝半音）。

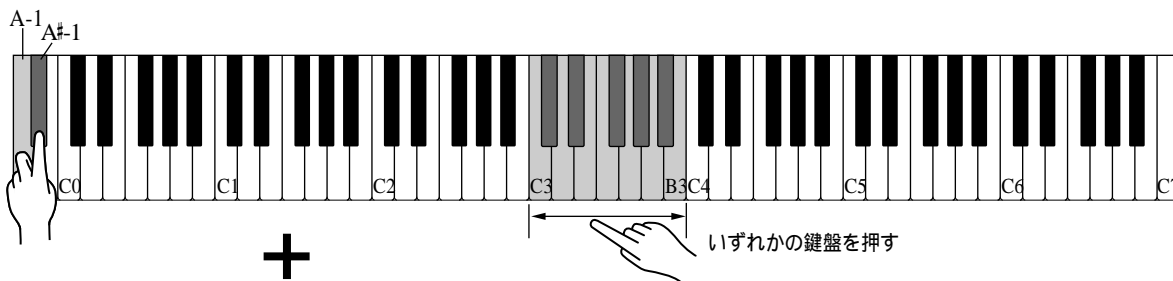
1 音程を上げる

A-1とB-1の鍵盤（左端の白鍵2つ）を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに1きざみずつ音程が上がります。音を聴きながらきざみに音程を上げて、他の楽器と合わせてください。



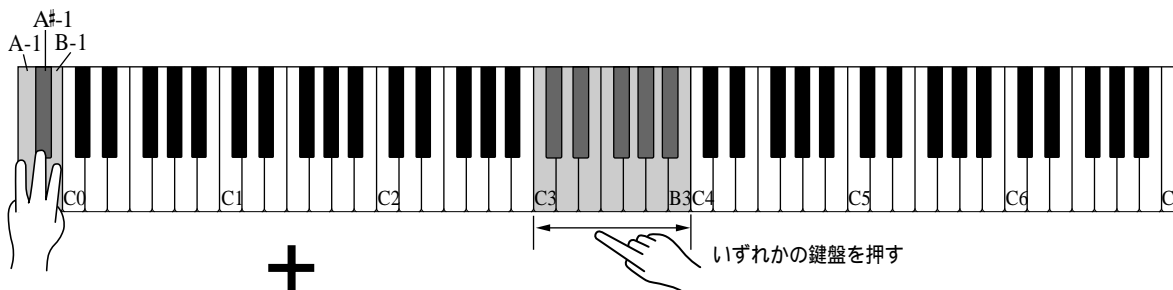
2 音程を下げる

A-1とA#-1の鍵盤（左端の白鍵と黒鍵）を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに1きざみずつ音程が下がります。音を聴きながらきざみに音程を下げて、他の楽器と合わせてください。



3 標準状態に戻すとき

A-1とA#-1とB-1の鍵盤（左端の白鍵2つと黒鍵1つ）を同時に押しながら、C3～B3のいずれかの鍵盤を押します。



- 🎵 補足 ・ 設定は電源をオフにするまで記憶され、電源オン時には、標準状態（A3 = 440Hz）に戻ります。
- ・ MIDIのローカルコントロールがオフ（21ページ参照）のときは、ピッチコントロールの設定はできません。

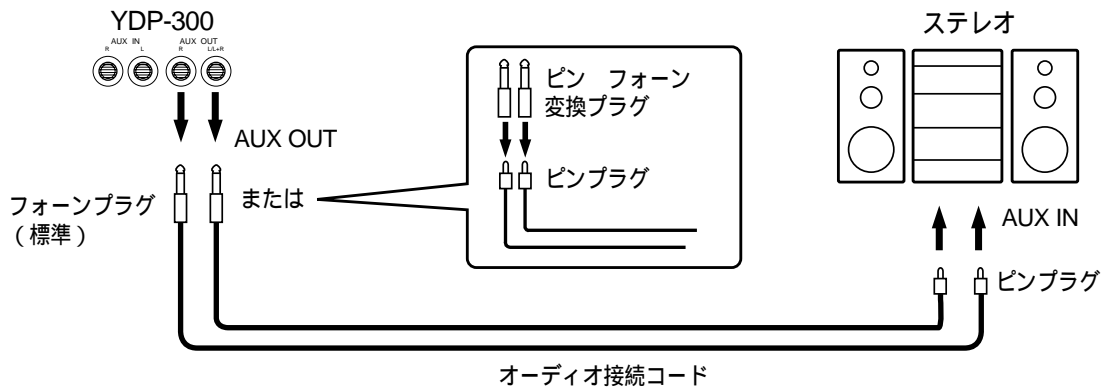
他の機器と接続する

リアパネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。なお、MIDI端子については次ページをご覧ください。

AUX出力端子を使う

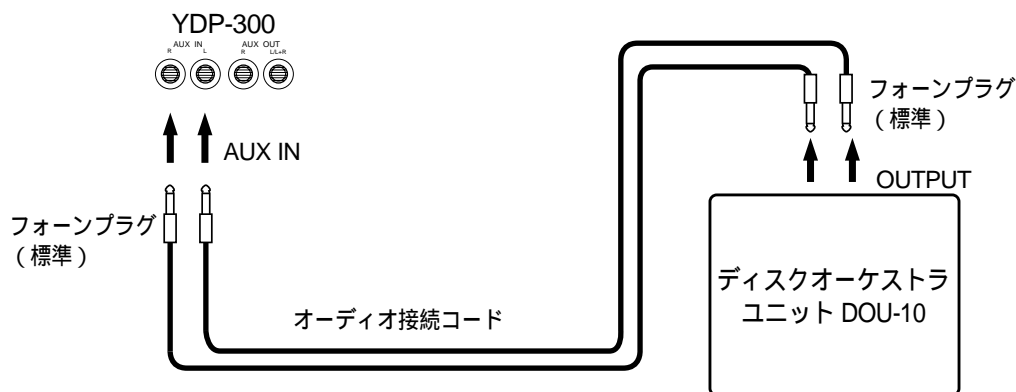
オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、ステレオなどからより大きな音を出したり、演奏を録音できます。


ステレオに接続したときは、YDP-300のボリューム（MASTER VOLUME）を半分くらいにして、ステレオのボリュームで音量調節してください。



AUX入力端子を使う

オーディオ接続コードを使って図のように接続すると、DOU-10など他の楽器や機器の音をYDP-300のスピーカーから出すことができます。



-  **補足** ・ AUX入力端子から入力した外部機器の音も、YDP-300の音といっしょに本体スピーカーとAUX出力端子から出力されますが、YDP-300の音量調節は効きません。
- ・ AUX出力端子から出力した音を、AUX入力端子に戻さないでください。
 - ・ オーディオ接続コードおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

MIDIとは

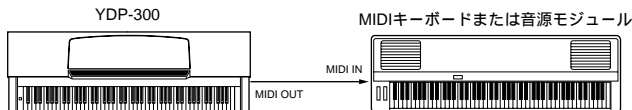
MIDI（ミディ）とは、「Musical Instrument Digital Interface」の略で、世界の主な楽器メーカー間での話し合いにより決められた世界統一の規格です。MIDIはデジタル信号なので、1本のMIDIケーブル上で演奏情報をはじめいろいろな情報を同時に扱うことができます。このMIDIを使うことによって、あるMIDI楽器から別のMIDI楽器を自由自在にコントロールすることができます。

MIDIを使ってできること

他のMIDIキーボードとつなぐ

図のようにYDP-300のMIDI OUTと、他のMIDIキーボードまたは音源モジュールのMIDI INをつないで、YDP-300を演奏すると、まったく違う音色によるユニゾンで鳴らすことができます。

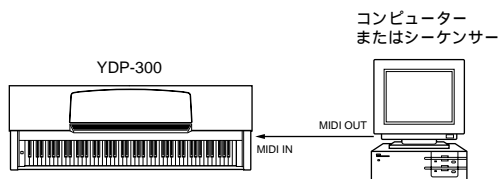
当然ですが、逆に他のMIDIキーボードのMIDI OUTとYDP-300のMIDI INをつなぐことによって、他のMIDIキーボードからYDP-300をコントロールすることもできます。



注意：他のMIDI機器と接続して鳴らす場合は、次ページの方法でMIDIチャンネルを合わせる必要があります。

コンピューターやシーケンサーの音源として使う
コンピューターやシーケンサーの自動演奏の音源として、YDP-300を使うことができます。

22ページのマルチティンバー機能を使うことによって、内蔵されている複数の音色で同時に鳴らすことができます。



注意：コンピューターを使う場合は、シーケンスソフトとMIDIインターフェースが必要です。

MIDIシステムのセットアップ

MIDIを利用するには、専用のMIDIケーブルを使って正しくMIDI端子を接続する必要があります。

MIDI端子

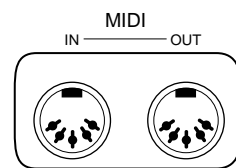
YDP-300のMIDI端子には以下の2種類があります。また、他のMIDI楽器には、これ以外にMIDI THRU（スルー）という端子がついていることがあります。

MIDI IN（イン）

MIDI情報を受け取るための端子です。

MIDI OUT（アウト）

MIDI情報を出すための端子です。



情報を送り出す機器のMIDI OUT（またはTHRU端子）と、情報を受ける機器のMIDI IN端子を、MIDIケーブルで結線します。

MIDIケーブル

電子楽器を扱っている楽器店で購入することができます。30cmから15mくらいまで、用途に応じていろいろな長さのものがあります。

注意：MIDI機器は、それぞれ機種ごとに扱えるMIDIデータの内容が異なる場合があり、接続しているMIDI機器間で共通の機能だけコントロールすることができます。

注意：この共通の機能を調べるには、MIDIインプリメンテーション・チャート（25ページ参照）を使います。

MIDI機能の設定

MIDIを利用するときには、目的に応じて設定しておかなければならない項目がいくつかあります。

MIDIチャンネルを合わせる (MIDI送信/受信チャンネルの設定)

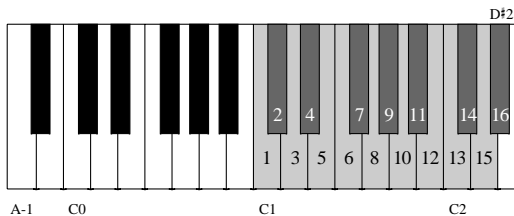
MIDIデータは一部を除いて、1～16のチャンネルを持っています。

MIDIデータを扱う場合、送信側と受信側でこのMIDIチャンネルを合わせておく必要があります。

送信側からMIDIデータが送られてくると、受信側で設定されているチャンネルと一致するものだけを受け付け、異なるチャンネルのデータは無視するようになっています。また、特別にオムニ・オン (OMNI ON) という状態があります。これはMIDIチャンネルに関係なく、受信したMIDIデータをすべて受け付ける状態です。

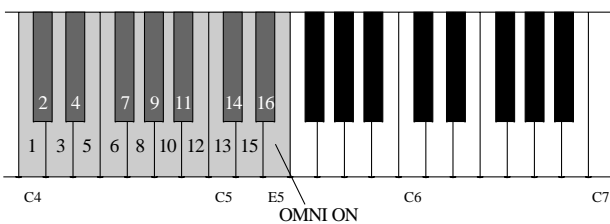
MIDI送信チャンネルの設定

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、C1～D#2の鍵盤を押すと、図のように送信チャンネルが設定されます。



MIDI受信チャンネルの設定

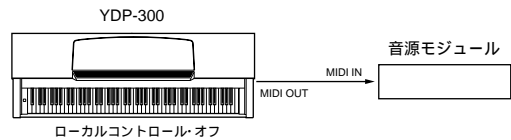
MIDI/トランスポートボタンを押しながら、C4～E5の鍵盤を押すと、図のように受信チャンネルが設定されます。



- ・電源をオンにしたときは、送信チャンネル=1、受信チャンネル=オムニ・オンに設定されます。

YDP-300の鍵盤と音源の機能を切り離して使う (ローカルコントロール・オフ)

YDP-300をはじめシンセサイザーなどでも、鍵盤を弾いて、内蔵されている音源で音を出すのが普通です。ところが、ローカルコントロールをオフにすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもYDP-300からは音が出なくなります。一方、演奏情報はMIDI OUT端子から出力されますので、YDP-300本体を鳴らさずにMIDIで他の音源をコントロールしたいときに、オフにしてください。



MIDI/トランスポートボタンを押しながら、ピアノ (PIANO) ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

「 操作中は、ローカルコントロール=オフでピアノボタンのランプが点灯、ローカルコントロール=オンで消灯します。

- ・電源をオンにしたときは、ローカルコントロール=オンに設定されます。

MIDIによる音色ナンバーの変更 (プログラムチェンジ)

MIDIを使って送信側の機器から受信側の機器の音色ナンバーを切り換えることができます。これをプログラムチェンジといいます。

いろいろなMIDIシステムを組んでいくと、このプログラムチェンジのデータの送受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合とがあります。

プログラムチェンジをオフにすると、プログラムチェンジの情報を送受信しなくなります。

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、エレクトリックピアノ1 (E. PIANO 1) ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

「 操作中は、プログラムチェンジ=オフでエレクトリックピアノ1ボタンのランプが点灯、プログラムチェンジ=オンで消灯します。

- ・電源をオンにしたときは、プログラムチェンジ=オンに設定されます。

コントロールチェンジについて

MIDIではペダルやボリュームなど、いろいろなデータの送受信も行えます。これらはコントロールチェンジとしてまとめて扱われます。

コントロールチェンジをオフにすると、コントロールチェンジの情報を送受信しなくなります。

MIDI/トランスポートボタンを押しながら、エレクトリックピアノ2 (E. PIANO 2) ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

「 操作中は、コントロールチェンジ=オフでエレクトリックピアノ2ボタンのランプが点灯、コントロールチェンジ=オンで消灯します。

- ・YDP-300がコントロールチェンジとして扱える情報は、23ページに詳しくまとめてあります。
- ・電源をオンにしたときは、コントロールチェンジ=オンに設定されます。

MIDI機能の設定

YDP-300をシーケンサーのマルチ音源として使う（マルチティンバー機能）

YDP-300に内蔵されている音色を、シーケンサーやコンピュータのマルチ音源として使うことができます。シーケンサーからパートごとにプログラムチェンジで音色を指定して鳴らすことによって、オーケストレーションを楽しむことができます。

マルチティンバー機能をオンにすると、マルチ音源として使うことができます。

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ハーブシコード（HARPSICHORD）ボタンを押すごとに、オン/オフが切り換わります。

「 操作中は、マルチティンバー機能 = オンでハーブシコードボタンのランプが点灯、マルチティンバー機能 = オフで消灯します。

- ・ 電源をオンにしたときは、マルチティンバー機能 = オフに設定されます。

低音部を外部音源で鳴らす（MIDIスプリット&レフトローカル・オフ）

鍵盤を好きな位置で低音部と高音部に分け、低音部の音をYDP-300では鳴らさないよう（MIDIスプリット&レフトローカル・オフ）にする機能です。音源モジュールなどのMIDI機器を接続すると、低音部は外部音源で、高音部はYDP-300の音源で鳴らすことができます。

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、オルガン（ORGAN）ボタンを押すごとに、MIDIスプリット&レフトローカル・オフと通常の状態が切り換わります。

「 操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでオルガンボタンのランプが点滅、通常の状態では消灯します。

MIDI/トランスポーズボタンを押したまま、境にしたい鍵盤を押します。

「 操作中は、MIDIスプリット&レフトローカル・オフでオルガンボタンのランプが点灯、通常の状態では消灯します。

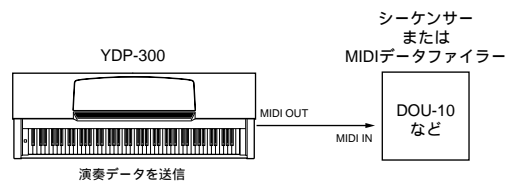
- ・ MIDIスプリット&レフトローカル・オフのときは、低音部はチャンネル2で送信、高音部は送信チャンネルで送信されます。
- ・ 電源をオンにしたときは、通常の状態に設定されます。
- ・ 境にした鍵盤は、常に低音部に含まれます。電源をオンにしたときは、境の鍵盤はF#2に設定されます。

録音した曲を外部機器に保存する（演奏データの送信）

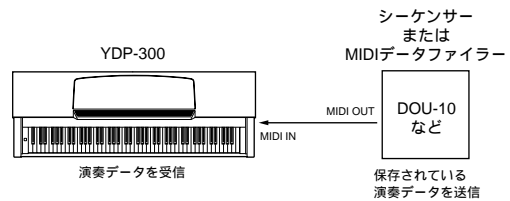
YDP-300のレコーダーに録音したデータを、MIDIデータとして送信し、ディスクオーケストラユニットDOU-10やシーケンサー、MIDIデータファイラーなどに保存したり、もう一台のYDP-300に送って使用することができます。

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、プレイ（PLAY）ボタンを押します。

「 MIDI OUTから、演奏データが送信されます。



- ・ 演奏データを受信させる場合は、データが保存されている機器のMIDI OUTと、YDP-300のMIDI INを接続します。保存されている側から送信が行われると、自動的にYDP-300が受信します。

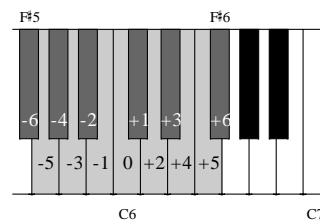


- ・ メトロノームがオンのときと、レコーダーの録音/再生中は、送信も受信もできません。

トランスポーズ（移調）して外部音源を鳴らす（MIDIトランスポーズ）

YDP-300で外部の音源を鳴らす場合に、送信するMIDIデータをトランスポーズすることによって、外部音源の演奏だけ移調させることができます。

MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、F#5 ~ F#6の鍵盤を押すと、図のように移調量が設定されます。



- ・ 電源をオンにしたときは、移調量 = 0（標準の音程）に設定されます。

MIDIデータフォーマット

1 ノートオン/オフ

[9nH] [kk] [vv]

9nH = ノートオン/オフ情報 (n = チャンネルNo.)

kk = ノートNo. (送信: 15 ~ 114 = D#-1 ~ F#7)
(受信: 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

vv = ベロシティ (ノート・オン = 01H ~ 7FH、ノート・オフ = 0)

[8nH] [kk] [vv]

8nH = ノート・オフ情報 (n = チャンネルNo.)

kk = ノートNo. (送信: 15 ~ 114 = D#-1 ~ F#7)
(受信: 21 ~ 108 = A-1 ~ C7)

vv = ベロシティ (ノート・オフ = 00H ~ 7FH)

ノート・オフの8nHは受信のみ、送信は9nH (vv = 00H) で行います。

2 コントロールチェンジ

[BnH] [cc] [vv]

BnH = コントロール情報 (n = チャンネルNo.)

cc = コントロールNo.

vv = コントロール値

cc コントロール 値 (vv)

07H ボリューム (受信のみ)

00H : -
6FH : -3dB
7FH : ±0dB

0AH バンポット (受信のみ)

00H ~ 17H : 左6
18H ~ 1FH : 左5
20H ~ 27H : 左4
28H ~ 2FH : 左3
30H ~ 37H : 左2
38H ~ 3FH : 左1
40H ~ 47H : 中央
48H ~ 4FH : スケーリングパン
50H ~ 57H : 右1
58H ~ 5FH : 右2
60H ~ 67H : 右3
68H ~ 6FH : 右4
70H ~ 77H : 右5
78H ~ 7FH : 右6

0BH エクスプレッション (受信のみ)

00H : -
6FH : -3dB
7FH : ±0dB

40H ダンパーペダル 00H ~ 3FH : オフ

40H ~ 7FH : オン

42H ソステヌートペダル

00H ~ 3FH : オフ

40H ~ 7FH : オン

43H ソフトペダル 00H ~ 3FH : オフ

40H ~ 7FH : オン

78H オールサウンド・オフ (受信のみ)

00H

79H リセットオールコントローラー (受信のみ)

00H

7AH ローカルコントロール (受信のみ)

00H : オフ

7FH : オン

7BH オールノート・オフ (受信のみ)

00H

7CH オムニ・オフ/オールノート・オフ (受信のみ)

00H

7DH オムニ・オン/オールノート・オフ (受信のみ)

00H

3 プログラムチェンジ

[CnH] [pp]

CnH = プログラム情報 (n = チャンネルNo.)

pp = プログラムNo.

pp 音色名

00H ピアノ

01H エレクトリックピアノ1

02H エレクトリックピアノ2

03H ハープシコード

04H オルガン

4 システムリアルタイムメッセージ

[rr]

rr コントロール

F8H タイミングクロック*1

FAH スタート

FCH ストップ

FEH アクティブセンシング*2

*1 送信時は96分ごとに1回。外部クロック時の受信は、テンポの96分のタイミングとして受信します。

*2 送信時は約200msecごとに1回。受信時は、400msec以上受信しないと発音が停止します。

オーバーラン・フラミングエラーが起こったときは、すべてのチャンネルのダンパー、ソステヌート、ソフトペダルをオフにし、オールノート・オフにします。

5 システムエクスクルーシブメッセージ

ヤマハMIDIフォーマット

[F0H] [43H] [XnH] [ff] [F7H]

43H : ヤマハID

Xn : サブステータス + チャンネルNo.

ff : フォーマットNo.

X ff 機能

0 7CH パネルデータ受信

2 7CH パネルデータ・バルクダンプリクエスト

2 7DH 機種IDコード・バルクダンプリクエスト

nはオムニ・オン/オフにかかわらず、受信チャンネルに指定されたチャンネルが有効です。

パネルデータフォーマット

F0H, 43H, 0nH, 7CH, 00H, 1BH (n = チャンネルNo.)

53H, 4BH, 20H, 20H

43H, 4CH, 50H, 27H, 39H, 34H

3xH, 3yH (x, y = バージョンNo.)

[パネルデータ]

[チェックサム (1バイト)] = 0 - (53H + 4BH + 20H + + データ
エンド)

F7H

パネルデータ項目

音色番号

デュアル音色

デュアルオン/オフ

デュアルバランス

0

0

0

0

0

0

MIDIデータフォーマット

ソフト/ステヌート

スプリットポイント

0

テンポ (絶対値 下位バイト)

テンポ (絶対値 上位バイト)

シーケンスデータフォーマット

F0H、43H、73H

38H (機種ID)

06H (バルクID)

02H (バルクNo.)

03H、0FH、0AH、02H (データ長 = wxyzH 0x1fd1*2バイト)

[パネルデータ] (シーケンスデータ)

[チェックサム (1バイト)] = 0 - sum (バルクデータ)

F7H

機種I ロード送信フォーマット

F0H、43H、0nH、7DH、00H、10H (n = チャンネルNo.)

53H、4BH、20H、20H (機種ID)

43H、4CH、50H、27H、39H、34H

3xH、3yH、20H、20H、20H、20H (x, y = バージョンNo.)

[チェックサム (1バイト)] = 0 - (53H + 4BH + 20H + + 20H)

F7H

YDP-300 MIDIフォーマット

[F0H] [43H] [73H] [38H] [yy] [F7H]

43H : ヤマハID

73H :

38H : 機種ID*1

yy : サブステータス

yy 機能

02H 内部クロック

03H 外部クロック

13H マルチティンバー機能オフ*2

14H DOC音色マルチティンバー機能オン*2

15H マルチティンバー機能オン*2

61H MIDIスタートキャンセル・オン*3

62H MIDIスタートキャンセル・オフ*3

7nH オールノート・オフ、受信チャンネル = n + 1、オムニ・オフ

*1 yy = 2, 3, 13, 14, 15, 7nのときは、機種ID (73H、38H) の代わりに、YDP共通ID (73H、01H) を受信した場合も受け付けます。

*2 [13H]、[14H]、[15H] を受信すると、すべてのコントロールチェンジをリセットします。また [14H]、[15H] を受信したときは、いつも同じ初期設定になるように音色などもリセットします。

*3 [61H] を受信すると、スタート (FAH) を受信してもスタートしません。また、ストップ (FCH) やタイミングクロック (F8H) には影響を与えません。[62H] はこの機能のキャンセルに使用します。

特殊コントロール

[F0H] [43H] [73H] [38H] [11H] [0nH] [cc]
[vv] [F7H]

43H : ヤマハID

73H :

38H : 機種ID*1

11H : YDP特殊コントロール

0nH : コントロールMIDIチェンジ + チャンネルNo.

cc : コントロールNo.

vv : 値

cc コントロール 値 (vv)

08H デュアルバランス 00H : 左側音色最大

7FH : 右側音色最大

1BH メトロノーム・オン/オフ (受信のみ)

00H : オフ

01H : オン

5AH デュアル・オン/オフ 00H : デュアル・オフ

01H : デュアル・オン

(ノーマル)

02H : デュアル・オン (左側

音色1オクターブ上)

03H : デュアル・オン (右側

音色1オクターブ上)

5CH デュアルボイス vv : デュアルボイス音色

アブソリュート・テンポ

[F0H] [43H] [73H] [38H] [11H] [1nH] [cc]
[dd] [F7H]

43H : ヤマハID

73H :

38H : 機種ID*1

11H : YDP特殊コントロール

1nH : コントロールMIDIチェンジ

(送信時 : n = コントロール・チャンネルNo.)

(受信時 : どのチャンネルNo. でもよい)

cc : アブソリュート・テンポ/L

dd : アブソリュート・テンポ/H

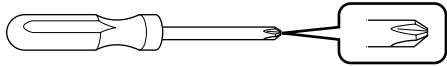
(テンポ = ddH*128+cc)

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1 1-16	1 1-16	
Mode	Default Messages	3 x *****	1 OMNI on, OMNI off x	
Note Number :	True voice	22-109 *****	0-127 21-108	
Velocity	Note on Note off	9nH, v=1-127 x 9nH, v=0	v=1-127 x	
After Touch	Key's Ch's	x x	x x	
Pitch Bender		x	x	
Control Change	07 10 11 64 66 67 120 121	x x x x x		Volume Pan pot Expression Damper Sostenuto Soft Pedal All sounds off *1 Reset All Controllers
Program Change :	True #	0-4 *****	0-4 0-4	
System Exclusive				
System Common	: Song Pos : Song Sel : Tune	x x x	x x x	
System Real Time	: Clock : Commands			
Aux Messages	: Local ON/OFF : All Notes OFF : Active Sense : Reset	x x x	(123-125) *1 x	
Notes : *1=receive (120,121,123) if omni off or multi-timbre on				

YDP-300の組み立てかた

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、2人で行うことをお勧めします。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

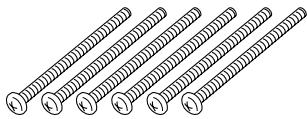
1 + (プラス)のドライバーを用意します。



2 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VT62610

長いネジ(金色) × 6
(5 × 45mm)



短いネジ(頭大) × 4
(6 × 18mm)



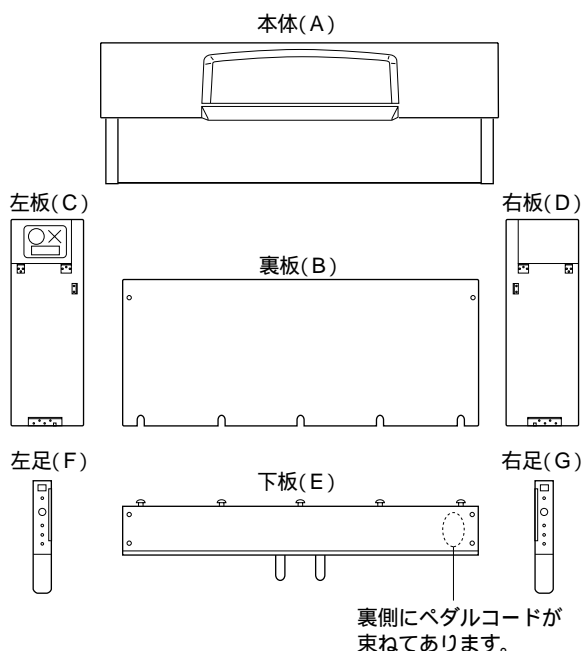
細いネジ × 2
(4 × 16mm)



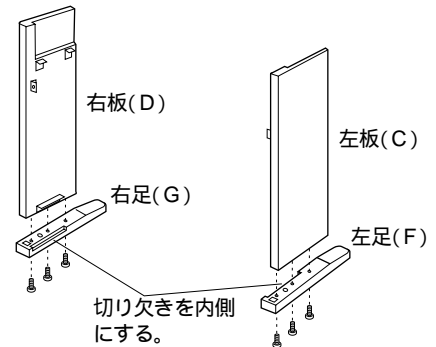
短いネジ(頭小) × 4
(6 × 16mm)



コードクランプ × 2

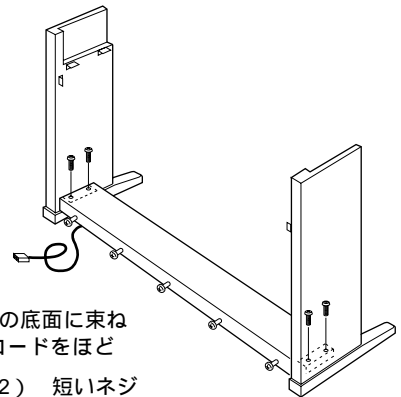


3 右板(D)と右足(G)、左板(C)と左足(F)を固定します。



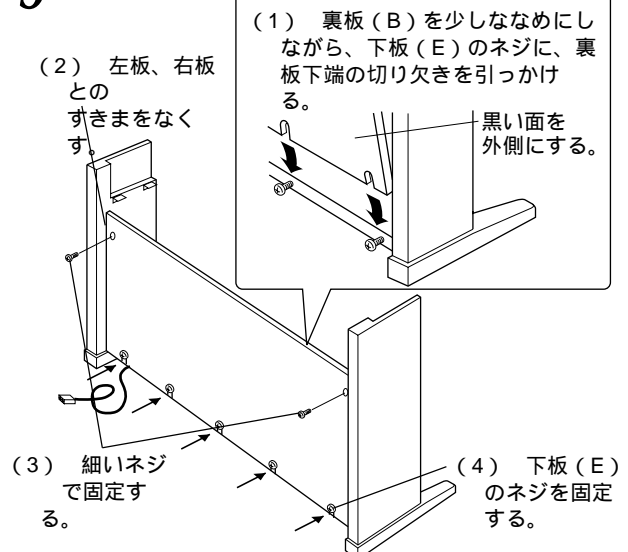
長いネジ(金色) で固定する。

4 下板(E)を固定します。



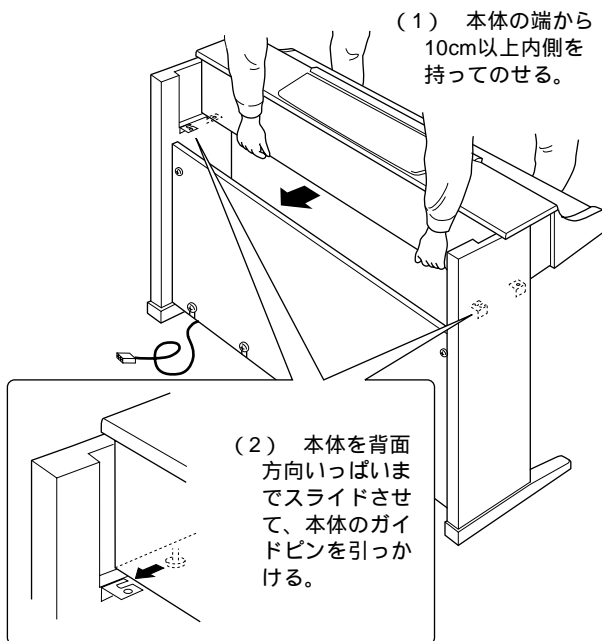
- (1) 下板(E)の底面に束ねてあるペダルコードをほどく。
- (2) 短いネジ(頭大)で固定する。

5 裏板(B)を固定します。

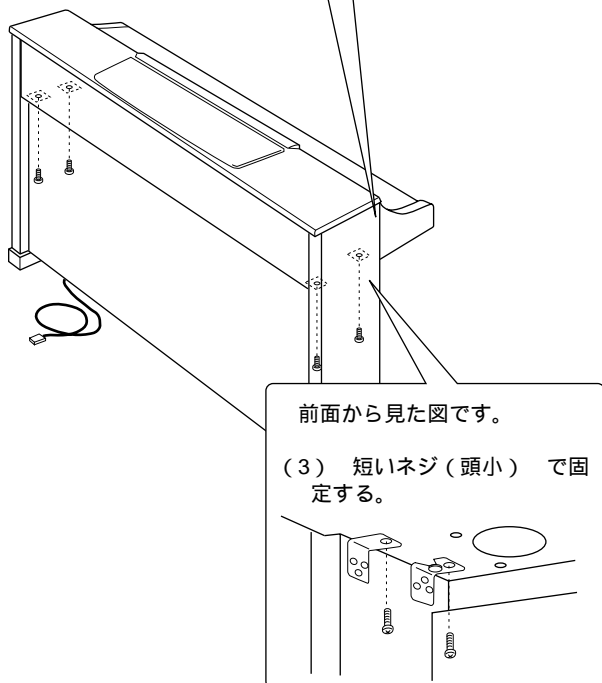
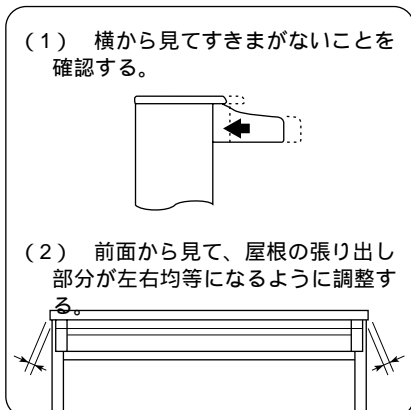


- (1) 裏板(B)を少しなめしながら、下板(E)のネジに、裏板下端の切り欠きを引っかける。
- (2) 左板、右板とのすきまをなくす。
- (3) 細いネジで固定する。
- (4) 下板(E)のネジを固定する。

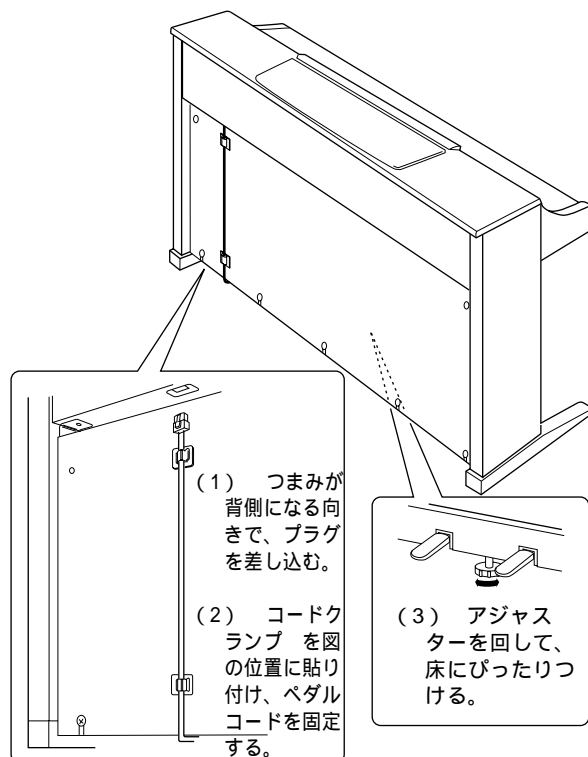
6 本体 (A) をのせます。
指をはさまないように十分注意してください。



7 本体 (A) を固定します。



8 ペダルコードを接続し、アジャスターを回します。



組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- ・ 部品が余っていませんか？
組み立て手順を再確認してください。
- ・ 部屋のドア等がYDP-300にあたりませんか？
YDP-300を移動してください。
- ・ YDP-300をゆすると、ガタガタしませんか？
ネジを確実に締めてください。
- ・ ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか？
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ・ ペダルコードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
確認してください。
- ・ 使用中に本体がきしむ、横振れる、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

仕様

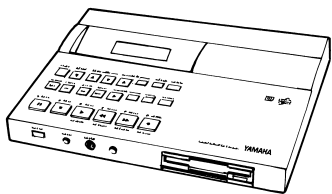
鍵盤	88鍵（A-1～C7）、イニシャルタッチ付き
音源	AWM音源
最大同時発音数	最大28音
音色	ピアノ、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、 ハーブシコード、オルガン
効果・機能	デュアル、トランスポーズ、ピッチコントロール、メトロノーム、 テンポ、デモ演奏
レコーダー	録音/再生、早送り
その他コントロール	電源スイッチ、ボリューム、ダンパーペダル、 ソフト/ソステヌートペダル
付属端子	ヘッドフォン端子（x2）、 AUX出力端子（L/L+R、R）：出力インピーダンス600Ω、 AUX入力端子（L、R）：入力インピーダンス10kΩ /入力感度- 10dBm、 MIDI端子（IN、OUT）
メインアンプ	20W×2
スピーカー	16cm×2
定格電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	30W
外装	仕上げ：ダークローズウッド調仕上げ 間口：142.8cm 奥行き：47.4cm 高さ：83.8cm（100.5cm*）、 重量：53kg
付属品	ヘッドフォン HPE-3、椅子 BC-8、 保証書、ご愛用者カード、取扱説明書（本書）

* 高さ（ ）内は、譜面立てを立てた場合
仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

オプション（別売品）のご紹介

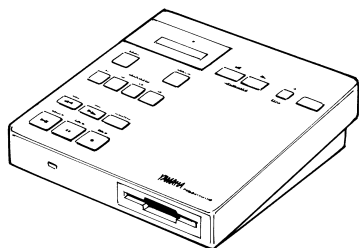
ディスクオーケストラユニット D O U - 1 0

¥69,000



ディスクレコーダー D R C - 2 0

¥50,000



DOU-10対応ソフト

ディスクオーケストラ・コレクション

オーケストラ音源をバックに、ピアノプレイが楽しめます。

下記7シリーズが発売されています。

- ・クラシック
- ・ジャズ
- ・ポピュラー
- ・スクリーン
- ・ファミリー
- ・メソッド
- ・弾き語り

（各巻 ¥3,000 ~ ¥5,000）

DOU-10/DRC-20対応ソフト

ピアノプレーヤソフト

ピアノソロ鑑賞用としてお楽しみいただけます。

（アーティストシリーズ各巻 ¥5,500より）

（リスニングシリーズ他、各巻 ¥4,000より）

り）

ピアノ・ア・ラ・モード

DOU-10/DRC-20共用のアンサンブルソフトです。

（各巻税込価格 ¥1,854 ~ ¥1,869）

表示の価格には、消費税は含まれていません。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6ヵ月です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

修理のご依頼

異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持ち込み窓口)

北海道サービスセンター 〒064 札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 513-5036

仙台サービスセンター 〒983 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236-0249

首都圏サービスセンター 〒211 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434-3100

東京サービスステーション* 〒108 東京都港区高輪2-17-11
(*お持ち込み修理のみお取扱) TEL (03) 5488-6625

浜松サービスセンター 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465-6711

名古屋サービスセンター 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652-2230

大阪サービスセンター内 〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 877-5262

四国サービスセンター 〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ(株)高松店内
TEL (0878) 22-3045

広島サービスセンター 〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14
TEL (082) 874-3787

九州サービスセンター 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472-2134

[本社]

カスタマーサービス部 〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL (053) 465-1158

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
L M 営業課 TEL (011) 512-6113

仙台支店 / 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
L M 営業課 TEL (022) 222-6147

東京支店 / 〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
特販営業課 TEL (03) 5488-5475

関東支店 / 〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
L M 営業課 TEL (03) 5488-1688

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
L M 営業課 TEL (052) 201-5199

大阪支店 / 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
特販営業課 TEL (06) 252-7491

広島支店 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
L M 営業課 TEL (082) 244-3749

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
L M 営業課 TEL (092) 472-2130

電子楽器営業部 / 〒108 東京都港区高輪2-17-11
TEL (03) 5488-6641

住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

M.D.G., EMI Division C Yamaha Corporation 1995
VT33080 503APAP15.2-02B0 Printed in Japan